

「今やるべきことは」 —早すぎる準備はない—

県立三木北高等学校
校長 田中 良季

【1年生の皆さんへ】

大学へ進学する人にとって志望校選びは、卒業後の職業や経歴、さらには人生そのものに直接大きな影響を与えます。漠然とでも構いませんが自分の将来設計を描き、それを実現するために必要な知識や技術を学ぶためにはどんな学部、学科がもっともふさわしいのかを考えるとところから大学選びは始まります。「将来、〇〇になりたい」という目標ができれば「そのために大学で〇〇を学びたい」、だから「今、〇〇の勉強を頑張ろう」というように、今、すべきことを見極めなければなりません。「高校に入学したばかりなのに」という言い訳も聞こえてきそうですが、高校は将来の進路目標に向けての通過点に過ぎないのです。

11月には文系、理系のどちらに進むかを選択し、2年生からは文系クラスと理系クラスに分かれ、学ぶ科目や授業時間数も変わってきます。文理選択は、この先の高校生活だけでなく、受験や大学生活、さらには将来の職業にもつながる大事な決断となります。1年生の皆さんそれぞれが仕事や大学に関する資料を調べたり、保護者や学校の先生に相談したりすることで、自分の興味関心にあった正しい文理選択をしてほしいと思います。

また、大学入試で問われる内容は高校で学習した内容です。特別な受験対策がどこかにあるわけではなく、日々の学習の積み重ねが受験につながります。特に、1年生で学習する内容が基礎となるので、1学期に理解不足の内容があるとすれば今後の学習に差し障りがでてくるでしょう。比較的時間にゆとりのある夏休みには、学校での既習事項を完全に理解できるようにしっかり復習しておくことが大切です。

【2学年の皆さんへ】

2年生になって文系と理系にクラスが分かれ、それぞれのカリキュラムで授業が進められるようになり、各自が自分の進路について今まで以上に考えるようになってきたのではないのでしょうか。自分の将来像をもう一度よく考え、それを実現させるために、次のことを行いましょう。

1. 「学部学科・大学の情報を集める」

学部と学科についての情報を集め、自分が興味を持って学べる学問分野を見つける。

2. 「大学入試の仕組みを調べる」

年々入試制度は複雑化しています。国公立大と私立大の試験の方法や時期の違い、一般入試

と推薦入試の違い、受験科目や配点などについて知っておけば、勉強の目標が立てやすいです。

3. 「大学を見学する」

夏休みには、全員がオープンキャンパスに参加しなければなりません。志望する大学のキャンパスを実際に歩いてみて、模擬授業を受けてみると、大学受験に対する強い闘志が湧いて来るでしょう。

4. 「受験に対応できる学力をつける」

いくら志望する大学や学部学科が決まっても、それに見合う学力が備わっていなければ何にもなりません。今一番大切なのは、自分の学力を伸ばすことです。毎日の授業を中心とする学習習慣を再確認してください。模試では、2年生前期は国数英の3教科、後期は理社も加えての5教科体制で取り組むことになります。

5. 「スタートを切る」

高校2年生の3学期は「高校3年生の0学期」です。第1志望校を決定し1日も早い受験に向けてのスタートを切ってください。

【3学年の皆さんへ】

3年生の生徒は受験生本番としての生活がはや4ヶ月過ぎました（2年生の3学期は3年生の0学期です）。受験に向けて力がついてきているのを実感できているでしょうか。推薦入試を考えるか、一般入試を考えるかで、人によって「本番」が違います。それまでの時間をどう使うかよく考えましょう。GWには第1志望を固め直して、入試に向けての戦略を整えなければなりません。今、皆さんが過ごしている時間は、取り返しのつかない貴重な時間であることをしっかり理解し以下の点をふまえて過ごしてください。

1. 「志望校の選定と傾向の把握」

各大学のホームページや受験雑誌などで第1志望校をしばり、その大学の入試に関する情報（試験の科目・配点など）をしっかりと把握しましょう。

2. 「勉強のスケジュールの組み立て」

自分の得意分野、不得意分野などを考慮して、どの教科でどの分野を何時間勉強すればいいか、本番までの日数を逆算してスケジュールを組み立ててください。本番までに必要な勉強が終わらなければ意味がありません。

3. 「最後の基礎固めと苦手科目の克服」

3年の1学期は志望校の合否を分ける大切な期間です。基礎・基本から復習し直す最後のチャンスです。苦手科目を克服する最後のチャンスです。1秒1秒が合否を分ける運命の分かれ道です。限界突破で夢実現を目指せ！